

**長野大学社会福祉学部の養成する人材像と
ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー
【令和9年度より適用】**

【長野大学社会福祉学部の養成する人材像】

全ての人の幸福（well-being）を実現する福祉コミュニティの形成に向けて、文理横断・文理融合の幅広い教養と社会福祉学の価値・知識・スキルをもとに、多様化した福祉的課題の発見と解決に主体的に取り組む、「福祉マインド」をもった人材を育成する。

【長野大学社会福祉学部のディプロマ・ポリシー】

「福祉マインド」をもった人材を育成するために、本学部では、卒業要件の124単位以上を修得し、以下に定める能力を有すると認めた者に、学士（社会福祉）の学位を授与する。

D P 1：人間科学を基盤とする幅広い教養、基礎的・汎用的能力

学生は、グローバルな視点を持ち、文理横断・文理融合の幅広い教養を修め、社会福祉学、教育学（発達支援）、心理学などの人間科学を基盤とする学際的な視野から物事を見つめるための、基礎的・汎用的能力を身につけている。

D P 2：社会福祉の制度・政策に関する知識・技能、社会資源を調整・開発する能力

学生は、社会福祉にかかる制度・政策の現状・課題を分析するとともに、生活問題に直面している人々の権利を擁護し、個人がもつ力を高めると同時に新しい社会資源を調整・開発する能力を身につけている。

D P 3：対人援助職としての価値・知識・技術および自己省察能力

学生は、人と環境の接点に働きかけるための知識とスキルを統合し、対人援助職としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を身につけている。さらに、自己理解を深め、長期的・俯瞰的な視点から自らの働きかけを省察的にとらえる能力を身につけている。

D P 4：社会福祉の運営、地域づくりに貢献するための能力

学生は、社会福祉の運営組織における権限、情報、人員、財源などについての知識を踏まえ、社会福祉・保健医療・教育関連施設・機関、団体等の運営、多職種・多機関による連携・協働、地域づくり（生活課題の解決に向けて地域に働きかけること）に貢献するための能力を身につけている。

DP5：地域の生活課題を把握・分析するとともに、課題解決や社会開発に向けて実践し、行動する能力

学生は地域住民および地域社会の実態やニーズを体験的に学び、全ての人々の幸福（well-being）の追求に必要な政策や実践のあり方を追究するための実践力・行動力を身につけている。さらに、人と社会を構成する多様な要素やそれらの相互作用関係を把握・分析し、生活課題が生成されるメカニズムを明らかにするとともに、他者に説明するための論理構成能力を身につけている。

【長野大学社会福祉学部のカリキュラム・ポリシー】

ディプロマ・ポリシーに示す能力を身に付けるために、カリキュラム・ポリシーを次のように定める。

CP1：教養科目と共通科目

本学部では、社会福祉を学ぶ共通基盤として、人間科学を基盤とする学際的な視野と文理横断・文理融合の幅広い教養、基礎的・汎用的能力を身につけるための教養科目、社会福祉および関連領域に関する基本的な価値・知識・技能を身につけるための専門基礎科目および専門科目を配置する。科目区分毎に選択・必修単位数を定めるとともに、専門基礎科目「人間と社会の理解」「社会福祉の視点と方法」「福祉の仕事」は必修とする。

CP2：社会福祉の制度・政策に関する専門基礎科目、専門科目

本学部では、社会福祉の制度・政策に関する知識・技能、社会資源を調整・開発する能力を修得するため、社会福祉制度・政策に関する専門基礎科目および専門科目を配置する。科目区分毎に選択・必修単位数を定めるとともに、専門基礎科目「社会保障Ⅰ」、専門科目「社会保障Ⅱ」は必修とする。

CP3：対人援助に関する専門基礎科目、専門科目

本学部では、人と環境の接点に働きかけるための知識とスキル、価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力、自己省察能力を養うため、対人援助に関する専門基礎科目および専門科目を配置する。科目区分毎に選択・必修単位数を定めるとともに、専門基礎科目「障害入門（発達支援学入門）」は必修とする。

CP4：地域福祉、コミュニティマネジメントに関する専門基礎科目、専門科目

本学部では、社会福祉および医療・教育関連施設・機関、団体等の運営、多職種・多機関による連携・協働、地域づくりにかかる知識・スキルを修得するため、地域福祉および運営管理に関する専門基礎科目および専門科目を配置する。科目区分毎に選択・必修単位数を定めるとともに、専門科目「社会福祉学研究入門Ⅰ」「社会福祉学研究入門Ⅱ」は必修とする。

CP5：演習・実習等科目、総合研究科目

本学部では、地域の生活課題を把握・分析するとともに、課題解決や社会開発に向けて実践し、行動する能力を身につけるため、演習・実習等の科目を配置する。また、人と社会を構成する多様な要素やそれらの相互作用関係を把握・分析し、生活課題が生成されるメカニズムを明らかにするとともに、他者に説明するための論理構成能力を身につけるため、総合研究科目を配置する。CP1からCP4までの積み上げの成果を確実にするために、専門科目「専門ゼミナールⅠ」「専門ゼミナールⅡ」「卒業研究と論文」は必修とする。

学修成果の評価については、妥当性および信頼性を確保するために、シラバスに記載した各授業科目の到達目標の達成度に応じて、多様な成績評価の方法を用いて多面的・総合的に評価する。

【長野大学社会福祉学部のアドミッション・ポリシー】

AP1：日本語の運用能力を中心とした基礎学力の修得

大学での複合的な学びの土台となる、文章読解・作成を中心とした日本語の運用能力に加え、外国語の運用能力もしくはデータの取得・分析に関する基礎的なリテラシーを含む幅広い基礎学力を修得している。

AP2：自己を知り他者を理解しようとする姿勢（自己省察や共感性）への志向

自己を知り、それを踏まえて他者を理解しようとする姿勢を有し、対人援助に求められる価値・態度（自己省察や共感性）を育もうとする姿勢を有する。

AP3：他者と連携・協働して学んだ体験もしくは他者との連携・協働への志向性を地域生活課題への関心に基づき表現する力

価値観の異なる多様な他者と連携・協働して、対話・傾聴・合意形成を図って学びを進めた体験もしくは連携・協働への志向性を、地域生活課題への関心に紐づけて表現する力を有する。

AP4：知識・技能の実践的応用とWell-beingの実現に向けた行動志向

学んだ知識・技能を地域コミュニティにおける協働活動や実習等の実践の場面で活かし、個人と社会がそれぞれにおいてちょうど良い状態（Well-being）の実現に挑戦する姿勢を有する。

社会福祉学部の養成する人材像と3つのポリシーとの関係

